第　１１４　号

平成２９年４月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

「四月八日」は、花祭りです

降誕会（こうたんえ）・四月八日は釈尊誕生の日です。花祭り、灌仏会（かんぶつえ）、仏生会、などともいいます。四月八日には、全国の寺院で花祭りが行なわれます。

＊美しい花で飾った「花御堂（はなみどう）」が設けられ、右手で天を、左手で地を指さした「誕生仏」が安置されます。

＊誕生仏に「甘茶」がかけられます。その昔、釈尊の誕生にあたって、九匹の龍が、清浄な香水や水を注いだという、祝福された故事によるもので、おそらく産湯のことでしょう。

＊甘茶は、ヤマアジサイの変種で葉を蒸してもみ、乾燥したものを煎じた飲料です。からだに、たいへんよいものです。甘茶を子供の頭につけると、丈夫に育つと信じられています。家中で飲んで延命息災を願います。＊長柄の茶杓を龍に見立て、小さな誕生仏に甘茶を注ぎながら、仏恩に感謝し、子供の成長を祈る清らかな心が、美しい慈悲の行事の心です。

寿楽院の花祭り

天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）

四月八日は、お釈迦様のお誕生日です。

仏典は、お釈迦様が右手で天を、左手で地を指し『天上天下、唯我独尊』と叫ばれたと伝えています☆また、お生まれになったとき、甘い香り豊かな雨が静かに降ったとも言われています。花祭りでお釈迦様の像に甘茶を掛けるのは、この伝説にみなもとがありました☆「天の上、天の下、一切を通じてただ我ひとり尊し」という言葉については、仏教の悟りの発展とともに、さまざまな意味の再発見が行われています。

☆弘法大師の教えを物差しにすれば、お釈迦様だけが尊いという意味で言われたのではありません。我というのは、この自分も含め、あらゆるもののそれぞれ、一つ一つということになります☆この世にあるすべてのものは、大いなる宇宙の根源（如来）のいのちの現れだというのが、弘法大師の示されたところですから、すべてのものは、すべて掛け替えもなく尊い存在だ、ということです。自分だけでなく、自分も含めた人間だけでなく、人間も含めたありとあらゆるものの尊さの宣言。これが天上天下唯我独尊の意味でありました。

お参りください

意地（いじ）

仏教が生んだ日本語

意　地

「意地」という言葉は、一般に自分の思うことを通そうとする心という意味に使われている。日常、「横綱の意地にかけて」「男の意地」などという使われ方もあるが、だいたい「意地を張る」「意地を通す」「意地になる」、あるいは「意地悪」など、「強情」と同義で、どちらかと言えばあまり良くない意味に使われているようである。「意地」はもともと仏教用語であり、人間の五官による認識（眼識・耳識・鼻識・舌識・身識）の次にくる第六意識（心）のことである。それは、あらゆるものを成立させる根源になる大地のようなものであるとされている。人間の心は、ちょうど大地のように、あらゆるものを生み出し、またおさめる無限の可能性を持っている。

空海の言葉　シリーズ

鴻雁（こうがん）の序（ついで）ある如く、群生（ぐんじょう）を利済（りさい）すべし

●●●雁の群が順序よく飛んでいるように、群衆を導け

雁は、カギ型か、サオ型（一直線）のどちらかの型をつくって飛んでいきます。弘法さんも、このような文章を書かれるには、きっとこの雁の群を見上げられたのでしょう。そして、「大勢の弟子たちを率いて行くには、雁のように順序よく整列させよう」と、考えられたのだと思います。

伝言板

生物学では、使わなくなると退化する。頭も体力も。